

「気象庁現業室で見る災害予警報の最前線へ」の報告

当学会では、気象庁にて2010年9月28日に「気象庁現業室で見る災害予警報の最前線へ」と題して、気象庁の現場見学及び気象庁の現場職員との意見交換会を実施しました。参加者は、総勢24名、大学生から教員、建設業、コンサル等の幅広い方に参加していただきました。

現場見学では、気象科学館、地震火山現業室の2つの見学が行われました。気象科学館では、緊急地震速報の原理と体験学習が行われ（写真1）、地震火山現業室では、現業室の中まで入らせていただき、24時間の監視体制や地震情報の取り扱いなどを丁寧にご説明いただきました。また、見学中に地震発生の際の警報が鳴り、緊迫した現場を体験することができました。

意見交換会では、気象庁様から「緊急地震速報の最近の状況」について内藤宏人氏（気象庁地震火山部管理課 即時地震情報調整官）、「2月27日のチリ中部沿岸の地震津波作業」について桑山辰夫氏（気象庁地震火山部地震津波監視課 調査官）からご講演していただきました（写真3）。また、当学会員から「宮城県内及び東北大学内における緊急地震速報の現状とその問題点について」について柴山明寛助教（東北大学災害制御研究センター）から発表を行い、活発な意見交換を行いました。参加者の学生からは「普段見られる場所では無い最前線の現場を体験することができ、今後の研究に繋げることができる」と感想をいただきました。



写真1 気象科学館内の様子



写真2 地震火山現業室の様子



写真3 意見交換会の様子



（文責：事業企画委員会 柴山明寛 東北大学）